

編集後記：今年になって通勤中の電車の中で本を読むことにしました。以前はノートパソコンを持ち歩いて作業をしていましたが、如何せん乗り物酔いしやすいので、ディスプレイを見ていると10分も持たないことがしばしば。その後の仕事・生活にも支障が出るくらいなら、他のことをしようと思い読書を始めました。ある本によると、読書の効能として体系的な知識取得にとどまらず、気分転換、集中力向上、収入アップなどがあげられていました。ところが、約半数の日本人は月1冊も本を読まないという統計結果があるそうです。また、読書は著者が費やした労力よりはるかに少ない労力で手軽に様々なことを学べるというメリットがあるとありました。気象学会誌「天気」は著者や査読に携わって頂いた方々の労力をかけて編集されたもので、気象・気候に興味を持っているという一般の方から、それらを専門に仕事としている方まで読んで学べる事があると思います。

うちでは「天気」を本棚に入れておくと、まれに娘が手に取って見ていることがあります。何を見ているのかと観察していると、白黒図、折れ線図などは残念ながら興味を示さないですが、カラフルな図や写真には目を引かれることがあるようでした。小学生の娘にはまだ漢字が読めなくとも、見ていて楽しい記事があるのだなあ、と感じました。

ところで、片づけに関する本を読んで心構えを学んだのですが、物に触れて「ときめく」ならそれは必要で、そうでないなら不要とのこと。折しも、部屋の片づけをして「天気」の山をどうするか思案していたところ。最近なら手軽にオンラインで読めてしまします。子供たちへの読み物として「天気」を残しておくか、オンラインで読んでしまうか、触れて「ときめく」か…。ともあれ、「天気」を読むことで読書の効能を得てみては如何でしょうか。

(沢田雅洋)